

第 5 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.03
	平安			

[問題 1]

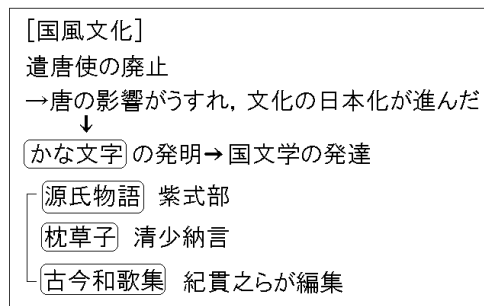
文中の()に適語を入れよ。

894 年、菅原道真の意見で(①)が廃止となり、大陸との交流が途絶え、生活や文化の日本化が進んだ。この時代の文化を(②)という。そのような中、漢字を変形した(③)が生まれた。(③)によって、それまでの漢文と違って、細やかな感情をそのまま書き表すことができるようになり、国文学が発達した。紫式部の(④)、清少納言の(⑤)、紀貫之らが編集した(⑥)などのすぐれた文学作品が生まれた。

[解答欄]

①遣唐使	②国風文化	③かな文字	④源氏物語
⑤枕草子	⑥古今和歌集		

[解説]



遣唐使の廃止によって、唐文化の影響がうすれ、日本の風土や生活感情に合った日本独自の文化が発展した。これを国風文化という。

国風文化のなかで一番重要なのは、わが国独自のかな文字が発明されたことである。それまで、文章は漢字を用いて漢文で書くか、万葉がなのように漢字の音を借用して書き表すよりなかった。

例えば、「から衣 すそに取りつき 泣く子らを 置きてぞ来ぬや 母なしにして」という万葉集に収められている防人の歌は、もともと万葉がなで「可良己呂武 須宗…」と書き表されるが、これは書くのも読むのも大変であった。

そこで、漢字の一部をとってカタカナが作られ、万葉がなに使われた漢字のくずし字からひらがなが作られた。ひらがなはおもに女性の間で使われた。

かな文字は、それまでの漢文と違って、細やかな感情をそのまま書き表すことを可能にし、国文学の発達をもたらした。

小説では紫式部の源氏物語、随筆では清少納言の枕草子が代表的作品である。和歌の分野では、紀貫之が編集した古今和歌集が名高い。

[問題 2]

次の①、②の書き出しで始まる文学作品名を書け。

- ① 今は昔、竹取の翁という者ありけり。野山にまじりて…
 ② 春はあけぼの。ようようしろくなりゆく山ぎわすこしあかりて…

[解答欄]

①竹取物語

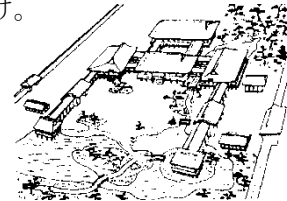
②枕草子

[問題 3]

右の図は、代表的な貴族の住居である。何造とよばれるものか書け。

[解答欄]

寝殿造



[解説]

貴族たちの服装は日本風にかわり、上級貴族は、美しい自然を庭園に取り入れた寝殿造の邸宅に住んだ。絵画にも日本の風景や人物が描かれるようになり、大和絵とよばれた。

[問題 4]

次の各問いに答えよ。

- (1) 右の写真は、宇治にある「平等院鳳凰堂」である。
 読み方を書け。
 (2) 平安時代の後半から流行した、阿弥陀仏にすがって
 極楽浄土へ生まれ変わろうという信仰を何というか。



[解答欄]

(1) びょうどういんほうおうどう

(2) 浄土信仰

[解説]

[浄土信仰]

平等院鳳凰堂(宇治): 藤原頼通
 中尊寺金色堂(平泉): 奥州藤原氏
 空也: 民間に浄土信仰を布教



平安時代中ごろ、盗賊の横行など社会が乱れ、地震・火災・日照り・洪水などの災害もひんぱんに起こった。このころ、シャカの死後 2000 年から末法の世になるという末法思想が広まり、阿弥陀仏にすがって極楽浄土に生まれ変わろうという浄土信仰が、不安をつのらせた貴族や庶民の心をとらえた。

藤原頼通は、この世に極楽浄土のようすを表そうとして、宇治に寝殿造の平等院鳳凰堂(右図)を建てた。

[問題 5]

奥州藤原氏が建てた東北地方の平泉にある寺院を何とといいますか。

[解答欄]

中尊寺

[問題 6]

A～C は何時代の文化を代表するものか、それぞれ時代名を書け。

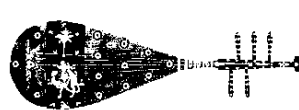
A 法隆寺



B 平等院鳳凰堂



C 琵琶



[解答欄]

A 飛鳥時代

B 平安時代

C 奈良時代

[解説]

A の法隆寺は、飛鳥時代に聖徳太子によって建てられたものである。

B の平等院鳳凰堂は、平安時代に、浄土信仰の影響を受けた藤原頼通によって建てられたものである。

C の琵琶は、奈良時代の東大寺の正倉院におさめられている。

[問題 7]

文中の()に適語を入れよ。

白河天皇は、1086 年、天皇の位を 8 歳の子にゆずって(①)となり、院とよばれる御所に住んだ。

そして、院に移ったあとも政治を行った。(①)が動かす朝廷の政治を(②)という。白河(①)は、藤原氏をおさえて、思いのままに政治を行った。

[解答欄]

①上皇

②院政

[解説]

1068年 後三条天皇 即位 (藤原氏と血縁がうすい) 1086年 白河上皇 が院政を始める
--

摂関政治の最盛期は 11 世紀前半～中頃の藤原道長・藤原頼通親子の時代であったが、藤原頼通の娘には皇子が生まれなかったため、1068 年に藤原氏を外戚としない後三条天皇が即位し、荘園の整理などを行った。その後を継いだ白河天皇は東国に勢力をもつ源氏と、西国に勢力をのびた平氏を用いて、新しい政治を行った。白河天皇は、位を幼い皇子にゆずって上皇になってからも政治の実権を握り、藤原氏に不満をもつ下級貴族等の支持を受けて、摂政・関白をおさえて院政を行った。

[問題 8]

次の各問いに答えなさい。

- (1) 右の年表のア、イに適語を入れなさい。
 (2) 次の文は年表中の A、B のどちらとかがかわりが深い。
 A、B のいずれかの記号で答えなさい。

年代	おもなできごと
1086 年	白河上皇が院政を始める
1156 年	(ア)の乱がおこる…A
1159 年	(イ)の乱がおこる…B
1167 年	平清盛が太政大臣となる

- ① 武士の棟梁同士の間で、藤原氏一族の対立から起こった。
 ② 天皇と上皇の対立と、藤原氏一族の権力争いから起こった。

[解答欄]

(1) ア 保元	イ 平治	(2) ① B	② A
----------	------	---------	-----

[問題 9]

次の各問いに答えよ。

- (1) 白河天皇は上皇となったのちも政治を行った。これを何というか。
 (2) 源氏をやぶって、武士としてはじめて太政大臣となった人物はだれか。
 (3) (2)の人物が、政治の上で大きな力をふるうきっかけとなった 2 つの乱は何と何か。
 (4) (2)の人物は、中国との貿易のためにどこの港を整備したか。

[解答欄]

(1) 院政	(2) 平清盛	(3) 保元の乱、平治の乱	(4) 兵庫(大輪田泊)
--------	---------	---------------	--------------

[解説]



平清盛は、兵庫の港(大輪田泊)を整備して、中国の宋との貿易を行った。清盛は、娘を天皇のきさきとし、一族で高い官職を独占し、多くの公領や荘園を支配した。そのやり方は貴族とかわらないものであったため、貴族や寺社の反感をかい、地方の武士の中にも不満をいだく者が増えた。